



令和8年7月21日発行 第1号

5月29日(金)、今年度の第1回学校運営協議会(コミュニティ・スクール 通称CS)が高志中等教育学校校長室で開催されました。会に先立ち校長より対象の委員に委嘱状が交付されました。新任委員をはじめ各委員による自己紹介が行われ、市教委の資料をもとに教頭よりCSについての事前説明があり、その後、議事に沿って協議が行われました。



《事前説明の内容》

学校運営協議会の役割と重要性

- 学校運営協議会の主な役割は、学校運営の基本方針の承認、意見表明の役割、熟議の重要性、PDCAの活用等だと確認した。

学校運営協議会の課題と改善策

- 現状の課題：報告・質問中心で熟議が不足し、議論が役割分担や実行に結び付きにくい。

改善策：①進行役が安心できる雰囲気を整え、目的を冒頭で明確化、焦点を絞った議題設定をすること。

②「スケジュールシート」を活用し役割分担を可視化すること。

③理解促進と熟議スキル向上のため、今年度も他校事例共有を通じた質の向上を期待してCS講座の開催をして予定している。そのような講座に参加すること。

※熟議とは、「熟慮」と「議論」を重ねて課題解決を目指し、未来を担う子どもたちの育成について、互いの意見を尊重し合い、知恵を出し合う肯定的で未来志向の話し合いをすることである。

【学校運営協議会メンバー】

会長 筒井 明子 元高志中等教育学校 PTA会長

副会長 田村 純子 高志中等教育学校 PTA会長

委員 土肥 幸枝 元高志中等教育学校 PTA副会長

委員 松田 暢夫 山潟中学校区青少年育成協議会 会長

委員 小山 進 新潟市議会議員 (新任)

委員 野澤 修 紫竹山コミュニティスクール協議会 副会長 (新任)

委員 上村 茂 元葛塚中学校 校長 (新任)

委員 岩崎 保之 関西大学文学部 教授

委員 灰野 仁 高志中等教育学校 校長

委員 竹内 滋之 高志中等教育学校 教頭

委員 山田 篤 高志中等教育学校 教頭

委員 高橋 祐子 高志中等教育学校 教務主任

CS事務員 後藤 素子 高志中等教育学校地域教育 CO

〈議事〉

(1) 令和8年度学校経営基本方針について

新潟市唯一の中等教育学校として、市教育委員会のスクールミッションに基づき運営方針を策定した。昨年度のCS会議の際にいただいたミッション文言の見直し意見を教育委員会へ伝達済みである。今後、柔軟な対応を検討中である。

○令和8年度学校経営基本方針について質疑応答した後、参加者全員により承認されました。



(2) 教育ビジョンについて

3つのポリシー

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 グラデュエーション・ポリシー | 「卒業時に目指す姿」 |
| 2 アドミッション・ポリシー | 「入学希望者への求める生徒像」 |
| 3 カリキュラム・ポリシー | 「社会・地域と関わる探究的学びを重視」 |

教育目標「志の涵養」 教育理念「自立と互敬」

教育内容

知性：大学進学志望が多数 授業の充実・課題提出指導の徹底
豊かな人間性：グローバル人材育成のため海外
(シンガポール) フィールドワーク再開予定

高い志：個別の進路支援と社会貢献 志の育成

近年の課題と取組

途中進路変更者の割合から前期生からの丁寧な説明・指導
総合探究で社会課題志向にシフトし外部発表機会増
大学入試制度変化への対応として探究実績を進路指導に活用

委員のみなさまからの意見

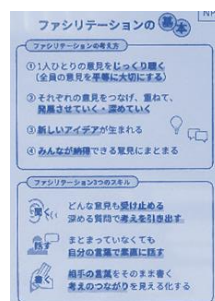
〈スクールミッション・資料表現に関する意見〉

- ・「社会に変革を起こせる生徒」という表現が誤解を招くと懸念。より柔らかな表現（新しい時代への対応、創造性）へ変更案を提起。
- ・基本方針と教育ビジョンの用語不一致による分かりにくさの指摘。
見やすい資料作成と用語整合の必要性。
- ・連携関係の図示、要点の箇条書き化など資料表現改善の要望。

(3) 土曜活用講座と総合探究における地域連携について

- ・実施状況：昨年度 8 講座、外部講師招聘。最新回は参加 96 名（生徒 68 名）
参加率全校生徒の約 1 割強。任意参加のためか伸び悩んでいる。
- ・役割分担・運営：PTA 主事業として計画。地域教育コーディネーターが連携。謝礼は PTA 予算（交通費程度）。講師は、ボランティアではなく講師扱い。保険等は PTA 側で調整中。
- ・目的・内容の変遷：当初は授業補完（つまづき対応・高度な内容）、近年は探究・進路支援へ移行。教員の教科外の自主参画が増加。
- ・参加しづらさの要因：働き方改革や地域クラブ活動（地域展開）との競合で土日が埋まり不参加増。体育祭土曜実施時不参加が課題。
- ・対象幅の難易度ミスマッチ：中 1～高 3 同一講座で興味喚起に失敗する例。初級・中級・上級の階層化提案。
- ・事前アンケートの限界と開講要件：大学側の最少人数要件により保護者参加で成立させた事あり。申込は直前増加傾向。入門的講座に参加が偏り、専門講座は少人数。
- ・教科学習・進路との接続：市民講座的に見えないよう、授業・進路とつながる設計（例：気象データ等）を強化。

それぞれの議事に対して大変貴重なご意見等をいただきました。特に土曜活用講座について、委員の皆さんから多くのご意見をいただきました。その結果をもとに熟慮しながらも柔軟に大学、団体、地域のご協力を無駄にしないようによりよい運営を目指していきます。



今後の CS 会議の予定

第 2 回 7 月 30 日 (木)

第 3 回 10 月 30 日 (木)

第 4 回 2 月 10 日 (水)

15:15～16:45